

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	高末(株)春日井物流センター	階数	地上2階
建設地	愛知県春日井市田楽町字池ノ上685番3 始め83番	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	70人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,880時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年12月 予定	評価の実施日	2024年9月10日
敷地面積	23,373 m ²	作成者	玉井 秀一
建築面積	11,172 m ²	確認日	2024年9月10日
延床面積	20,519 m ²	確認者	玉井 秀一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 81% (46 kg-CO₂/年・m²)

③ 上記+②以外の: 81%

④ 上記+: 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目

<h4>① 地球温暖化への配慮</h4> <p>3.7</p>	<h4>③ 敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>30.9%</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0%</p>
<h4>② 資源の有効活用</h4> <p>3.3</p>	<h4>④ 地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

① 地球温暖化への配慮
 LR-3-1 地球温暖化への配慮
 ② 資源の有効活用
 Q-2 耐用性・信頼性、Q-2-3 対応性・更新性
 LR-2-2 非再生性資源の使用量削減
 ③ 敷地内の緑化
 Q-3-1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
高末(株)春日井物流センター

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
															評価点
Q 建築物の環境品質															2.5
Q1 室内環境															
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	
1.2 遮音		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	
1.3 吸音		-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	
2 温熱環境															
2.1 室温制御		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 室温		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	
2 外皮性能		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	
3 光・視環境															
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光率		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御		5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 空気環境															
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 換気量		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能															
1 機能性															
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	独自	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性															
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.5	3.0	0.52	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.3	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	配管にB以上を使用している。	-	5.0	0.15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性		0.1	2.8	0.19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 電気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

3 対応性・更新性				0.4	4.2	0.48	-	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			階高=3.9m以上		5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率=0.04	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3900N/㎡以上	3.0	5.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性		②		0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性					3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出		独自③			1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.64	3.0	5.0	0.20	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.10	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.61	3.0	4.9	0.50	-	-	-	4.9
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水型便器を使用している。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-		3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率81%		3.7	0.33	-	-	-	3.7
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない。		5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制		独自	適切な量の駐車スペースと自転車置場を確保している。		5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音		独自			3.0	0.50	-	-	-	
2 振動		独自			3.0	0.50	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制					3.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:30.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 高末(株)春日井物流センター

計画上の配慮事項	
総合	建物全体の熱負荷抑制、対応性・更新性に配慮した計画とした。
Q1 室内環境	審査対象外
Q2 サービス性能	ゆとりある階高と荷重の設定により、対応性・更新性の配慮を行っている。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地外周部に緑地帯を設け、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	事務所棟の外壁に断熱性のある材料を採用している。 また、LED照明器具を採用している。
LR2 資源・マテリアル	事務室の床はフリーアクセスフロアとすることで、非再生性資源の使用量削減に配慮している。
LR3 敷地外環境	適切な量の駐車スペース、自転車置場を確保している。
その他	